

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書の訂正報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の2第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成21年6月29日

**【事業年度】** 第48期(自平成20年3月1日至平成21年2月28日)

**【会社名】** ラオックス株式会社

**【英訳名】** Laox CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 山下 巖

**【本店の所在の場所】** 東京都千代田区神田須田町2丁目19番

**【電話番号】** (03)6859-3804

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 管理本部長 田中 裕

**【最寄りの連絡場所】** 東京都千代田区神田須田町2丁目19番

**【電話番号】** (03)6859-3804

**【事務連絡者氏名】** 執行役員 管理本部長 田中 裕

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成21年6月26日に提出した第33期（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するため、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

## 2【訂正事項】

第2 事業の状況

4 事業等のリスク

継続企業の前提に関する注記について

## 3【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_線で示しております。

## 第2 事業の状況

### 4 事業等のリスク

～ <省略>

継続企業の前提に関する注記について

(訂正前)

「継続企業の前提に関する注記」において記載しておりますとおり、当社グループは、当連結会計年度において、連結営業損失を計上しており、平成14年3月期より8期連続で営業損失を計上しております。また、連結営業キャッシュ・フローもマイナス25億27百万円となり、4期連続マイナスの状況にあり、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

(訂正後)

「継続企業の前提に関する注記」において記載しておりますとおり、当社グループは、当連結会計年度において、連結営業損失を計上しており、平成14年3月期より8期連続で営業損失を計上しております。また、連結営業キャッシュ・フローもマイナス25億27百万円となり、4期連続マイナスの状況にあり、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在しております。

また、厳しい市場環境を乗り越え、今後の事業継続維持のみならず発展のために、資本の増強による財務基盤の強化、経営の刷新、信用力の補完も喫緊の課題であり、また、今後の経営戦略として、郊外型家電事業から撤退し、秋葉原地区の事業に大きく重心を置いた経営体制へと軸足を移している状態であり、華人を対象にした海外ビジネスに長けたパートナーと協働することによる家電免税販売事業を飛躍させるための方策として、第三者割当増資による新株式発行及び新株予約権に関する有価証券届出書を平成21年6月25日付で提出いたしました。この増資が不調に終わった場合、財政状態及び家電免税事業の体制強化のスピード等に重大な影響を及ぼす可能性があります。